

区議会レポート

94号

2023年4月25日発行



葛飾区議会議員
かわごえ誠一

本号の内容

表面：第一回定例会・臨時会など
裏面：タウンミーティング報告

発行：

かつしか区民連合

【区議会控室】〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

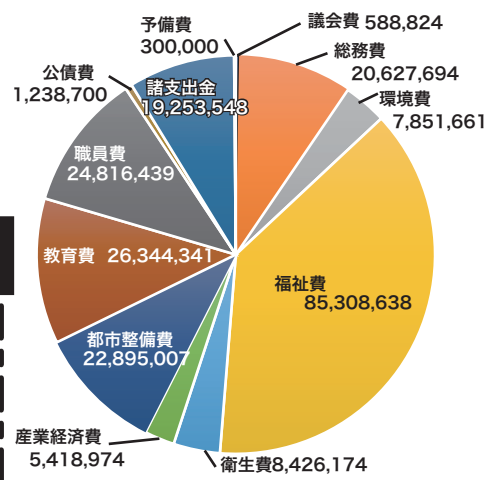
電話 03-3695-1111 (代)

f a x 03-3697-0137

令和5年葛飾区議会第一回定例会閉会

令和5年度一般会計当初予算案 2,230億7千万円可決

◆43日間の会期で開かれていた令和5年葛飾区議会第一回定例会が3月29日(水)に閉会しました。◆最終本会議において過去最大規模(前年度比5.2%増)となる令和5年度一般会計予算2,230億7千万円が賛成多数で議決され、新年度がスタートしました。◆学校給食費無償化、児童相談所開設、くらしのまるごと相談窓口、带状疱疹予防接種の助成などが盛り込まれました。



令和5年度予算 単位：千円

第一回臨時議会・第一次補正予算上程

◆4月25日(火)に令和5年葛飾区議会第一回臨時議会が招集され、令和5年度第一次補正予算案35億1,757万円が計上されました。◆低所得世帯などに対し、電気・ガス代や食料費などの物価高騰の負担軽減のための給付金を支給するために審議されます。◆住民税非課税世帯など低所得世帯に一世帯当たり特別給付金3万円が、また、ひとり親世帯及び低所得の子育て世帯向けとして子ども一人当たり特別給付金5万円が給付されることになりました。

学童保育クラブ待機児童対策を求める緊急要望提出！

◆令和5年度、複数の地域で私立とともに公立学童保育クラブでも小学3年生以下の待機児童が発生しました。◆子どもたちが放課後を安心・安全に過ごせるため、待機児童は早急に解消する必要があります。◆そのためにかつしか区民連合として4月5日(水)に、青木かつのり葛飾区長に対し、学童保育クラブの待機児童対策を求める緊急要望を行いました。◆公立・私立の枠を越えて、地域全体の状況を把握し、あらゆる手段を講じ、スピード感を持った対策を要望しました。◆さらに夏期休業中の子どもの受け入れや、わくわくチャレンジ広場も含めた放課後支援の充実を求めました。

■かわごえ誠一連絡先■

〒124-0012 葛飾区立石8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail : info@kawagoeseiichi.com

かわごえ誠一オフィシャルサイト

www.kawagoeseiichi.com

日々の活動はFacebookをご覧ください。

◆かわごえ誠一プロフィール◆

●1963年3月川崎市生まれ ●立石在住34年 ●防災士 ●東海大学第二工学部建設工学科卒業 ●元東京工業大学附属科学技術高校非常勤講師 ●本田消防団第四分団班長 ●葛飾区ポッチャ協会会長 ●学童保育クラブ増設運動、保田養護学校存続運動、三番瀬保全活動、保育園、学童保育クラブ父母会、小・中PTA連合会、おやじの会、図書館友の会、子育てネットワークなどに携わる ●元都議会議員秘書を経て2013年区議会議員選挙で初当選・2021年三期目当選 ●議会議員所属：建設環境委員会委員長・区民サービス向上対策特別委員会・議会運営委員会など

かわごえ誠一タウンミーティング・学習会報告

◆2月3日開催 タウンミーティング 「子どもの遊びから未来を考える」 ～遊び場から子どもの育ち・地域のつながりを考える～

◆2月3日（金）にタウンミーティング「子どもの遊びから未来を考える」をオンラインで開催しました。

■子どもたちの遊び環境は？

◆まず、かわごえが取り組んできた活動を報告しました。子ども区議会で毎年のように遊び場についての質問が出されていますが、それは遊び場問題が一向に解決しないからに他なりません。かわごえも議会で重ねて質問をしてきましたが、総論では遊びの重要性を認めながら、具体的な施策は進まない現状があります。これは、遊びの課題を扱う部署がないことや、何より子どもの遊びについての共通認識や価値付けが社会全体でなされていないことがあり、行政としての計画や制度などが無いことが課題だと感じています。今後子どもの権利条例策定に向け遊びの位置づけをする必要があることなどを報告させていただきました。

■遊び場の出前で目指すもの

◆次に一般社団法人SSK代表の須藤昌俊さんから「移動式遊び場とあそび大学で目指すもの」として講演をしていただきました。須藤さんは自分の力で考え・判断し・選択し・学ぶことをができる子どもを育てたいとの思いでSSKを立ち上げ、墨田区でジュニアリーダーの支援などと共に、子どもたちのキャンプを開催していたとのことですが、新型コロナウイルスの拡大で子どもたちのキャンプができなくなり、子どもに来てもらうのではなく逆に地域に出向こうと、移動式遊び場のプレーカーを考えたとのこと。立ち上げの事前の学習会の中で「自由に遊んでいいよ、と言われた時に遊び方がわからない子どもが多い」との課題が上げられ、おとなが指導や禁止をせず、子どもの主体性を育てるために遊びのデザインが大切だと語られました。地域のおとなが子どもとともに遊ぶことで子どもに寛容になることも期待され、遊び場が出向くことで、人の動きや新しいつながりも生まれることを感じているとのことでした。

■あそびの輪を広げたい

◆次に「あそび☆かつしか」の流王法子さんから区内での活動をご紹介いただきました。「あそび☆かつしか」は子ども劇場と生涯学習課の協働での遊びスタッフ養成講座から発足した団体で、商店街での忍者修行や、公園での遊び場づくりなどを実施しています。遊びへの思いは一人一人違い、葛藤もあるが何が起こるかかわからないことが面白いとのこと。「遊びは子どもの主食」を掲げ、子どもの権利としての遊びを大切にしていきたいとの思いを伺いました。

■まず、あそびを面白い仲間を作ることから

◆まちの中で遊びを展開することで、まちが動き出し、遊びを介して人と人がつながり、まちづくりへと広がることが改めて確かめられました。子どもの遊びを拡げるためにはボランティアだよりでなく、行政の支援も重要です。その上で、子どもと遊びを楽しむおとな、面白い心を持つ「仲間」を増やすことから始めたいと確認し合いました。

◆2月10日開催 タウンミーティング 「立石のこれまでとこれからと」 ～「まちづくり」から「まち育て」へ・ 人のつながるまちを目指して～

◆2月10日（金）にタウンミーティング「立石のこれまでとこれからと」をオンラインで開催しました。

■立石の現場から

◆冒頭、かわごえから区議会での活動など報告しました。今まで、地域の合意形成を求めるとともに、立石駅南北のまちづくりへエリアマネジメントの導入を提案し予算化されてきました。立石は「新しいまちにしたい」という思いと、「雰囲気を残したい」という思いが対立している現状があり、相互理解がされない状況が生じてしまいました。これからのまちづくりには歴史の保全・継承と人がつながれる場づくりが重要との考えを述べさせていただきました。

■東京下町・立石界隈の歴史と文化

◆「東京下町・立石界隈の歴史と文化～立石らしさを構成する要素を探る」と題し、葛飾区学芸員の谷口栄さんから講演をしていただきました。東京の低地帯に位置する立石を交通の視点から見ると、立石様の石材は周辺の古墳と同じ鋸山からの中川を通しての水運があり、また、奈良から東北を結ぶ官道・古代東海道の一部も通っていたとされ、水運と街道の交わる場所でした。立石様は、江戸名所図会などにも記載され、柴又に向かう観光地としても名が通っていました。その後大正期に現在の京成線が開通し、関東大震災での被災者が移り住むなどを経て現在の京成立石駅周辺を中心にまちが形成され、戦後、高度経済成長期に現在のまちへと発展してきたとのこと。その中で、のんべ横町など飲み屋からもつ焼きやハイボール等の食文化が広がり、今の立石らしさが発展してきました。その歴史や様々な文化も含めて継承していく必要があると語られました。

■イラストレーターの視点から

◆次にイラストレーターのかつしかけいたさんから、「イラストレーターが目から見た立石のまちと人」として、話を伺いました。立石にある様々な街並みを描いているかつしかけいたさんは、「変わりゆく立石のまちを描き残していくことが、イラストレーターとしてできることだと考えている」とのことでした。そこで出会った人々の言葉もイラストの中に残し、将来へつなげていきたいと語られました。

■コミュニティを育てるしかけづくりを

◆今、まちが変わることを受け止めながら、コミュニティのあり方や記憶のつなげ方が試されていることを改めて感じました。歴史とともに、人と人との出会いがまちに魅力をもたらします。今後、地域の歴史や食文化など、様々な視点を活かし、コミュニティづくりを進めていきたいと思いを。

